

○令和元年度逗子市療育推進事業検討会における意見等について

整理番号	【ご質問・ご要望等】	ご質問・ご要望に対する考え方
1	<p>相談ニーズの増加により、各職種別の相談件数も伸びていると理解します。逗子市障がい者福祉計画の施策の柱の一つである「障がいのある子どもの支援体制の充実」においても療育相談の取組目標としてありますが、昨年度と同計画検討会においてアドバイザーより指摘がありました「もっと取り組みの内容がわかりやすい指標」として、今後、相談件数だけでなく、例えば各相談における相談者・利用者の実数等の会議でのご提案をよろしくお願いします。</p>	<p>令和2年度の会議で公表できるよう、各相談における実数の把握に努めてまいります。</p>
2	<p>ワークショップや講座を市民交流センターで行ってみてはいかがでしょうか。</p>	<p>施設利用料や参加者の利便性等を踏まえて、検討してまいります。また、くろーばー主催の市民向け講演会については、市民交流センターで実施しておりますので、ぜひご参加いただきたく存じます。</p>
3	<p>ひなたファイルは支援が必要な子どもを対象とするイメージが強く、ハッキリしない・迷いのある保護者には受け入れにくさもあるように感じました。母子手帳のように出産したら配布して、定期検診や入園・入学の時にも活用するなど、特別なものではないといった成長の記録として活用してもいいと思います。</p>	<p>センター利用者だけでなく、今後は市民向け公開講座等における配布（希望者対象）を行う予定です。関係所管や利用者のニーズ等を把握したうえで、広く周知・活用できる方法を検討してまいります。</p>
4	<p>市全体、園全体の児童の児童数が分からず、それぞれ全体の何%いるのか分かりにくかったです。</p>	<p>令和2年度の会議で公表できるよう、関係所管と調整いたします。</p>
5	<p>ワークショップや講座にも参加できない、母子家庭で生活にも気持ちにも余裕がなく頑張っている家庭もあると思います。より周知できるようワークショップや講座の内容を参加しなくても届けられるような何か方法があればよいと思いました。</p>	<p>全ての内容を理解していただくことは困難ではございますが、配布資料等の市HPへの掲載を検討してまいります。</p>

整理番号	【その他ご意見等】
1	令和元年度から始まったペアレントプログラムは好評だと聞いています。ひなたファイル勉強会も含めた取り組みを今後もお願いします。
2	学校との連携も少しずつ進んでいるようですので、引き続きよろしくをお願いします。
3	学齢前の巡回相談、コンサルテーションが常に加え続けるだけでなく、安定していることは、既にセンターの機能が市内において一般的になったことかもしれません。今後、より個別の対応や集中的な支援を要するケースへの対応をされていくなかで、保育園、幼稚園ごとの傾向等が見えてくるのではないのでしょうか。
4	当事業所においても、発達障害地域支援マネージャーの受託を神奈川県からしておりますが、逗子市からの児童の相談は多くありません。しかし、相談支援を行う中で、親をクライアントとしてとらえる必要があるケース、親の就業の為に放課後等デイの利用・多用などの課題は残存しているため、子の支援だけでなく、親支援についても幼少の頃から連携して取り組んでいきたいと思えます。
5	こども発達支援センターにおける相談部門及び療育部門の概要、流れ、連携、実績がよくわかりました。令和2年度の重点課題の記載がありました。積極的に取り組んでいただきますようお願いします。
6	こども発達支援センターの存在が次第に周知され、利用者が増加しているようで良かったと思います。
7	(ひなたファイルについて) ワークショップの参加者が少なく、親にとっては書くことの負担、書く目的、意義が見えないなど、取り組めない気持ちは十分理解できますが、子どものこれからの生活にも役立つことなど親に伝えられたら良いと思います。ひなたファイルの有用性を地道に伝え続け、有効活用できる事例を増やしていくことが大切だと思います。
8	(学校との連携) 福祉と教育との連携は以前からのなかなか進展しない課題だと感じています。療育教育総合センターができたことで、少しずつでも進展しているようで嬉しく思い、更なる進展を望みます。
9	センターと学校の連携が進んできていることは、素晴らしいと思います。入学するときに教育委員会とのやりとりで不安や不満を聞くことがあります。保護者の気持ちに寄り添った対応が大切だと思います。
10	問題はなくならず、解決には時間がかかることも多く、大変な中、職員の方々が一生懸命取り組んでいると思いました。
11	センターの職員が全てを背負うのではなく、支えが必要な家庭に関わる機関、周りの大人たちが上手くつながることで支えが必要な子どもの成長が大きく変わると思うので、これからも利用者以外の市民に知ってもらえる場面をたくさん作ってほしいです。理解のある親が増えることで理解のある子どもが育ち、支援が必要な子どもたちの学校生活も楽しくなると思います。支える側になる子どもたちにとっても、素晴らしいことだと思います。
12	前回の検討会で拝見した「ひなたファイル」の存在に感動し、園でも「えがおファイル」と称して配布しました。強制ではなく、書きたくなった時に出してねと伝え、提出してくれたご家庭のほのぼのとした様子が伺えました。職員も回覧し、気持ちに近づけるよう共有しています。
13	年に数回ある巡回相談にあがる事例も年々増えてきている現状ですが、園と家庭の足並みがそろわず、日々の関わりに行き詰まる場面もあります。保育士は一生懸命、先々を考えていますが、思いが届かず、悩んでいることもあります。今後も様々な助言をお願いします。